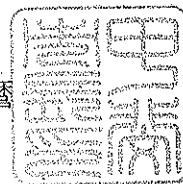




平成19年5月8日

国土交通省道路局長 殿

山梨県甲斐市長 藤巻義磨



今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

今後の道路政策等においては、合理的な基準に基づく効率化、計画的な推進のための財源確保、地域・地方の実情に配慮した柔軟性、コスト削減のための技術導入、効果の検証と反映についての説明責任などに取り組むことが必要であります。特に以下の点については十分に考慮することが重要であると考えます。

1. 効果を早期に発揮するための重点投資、情報提供の徹底

道路はネットワークを形成して初めて効果を発揮するものであり、公共交通機関や道路整備が一定水準まで整備された大都市と比べて、自動車に依存せざるを得ない地方においては、幹線道路、生活道路を問わず重点投資を進める必要があります。

現状では、本市内においても分散的な予算配分により、開通までに長期間を要している都市計画道路等があり、沿道の土地利用も効果的に進まず、投資効果が十分に発揮されておりません。地域間のバランスに一定の配慮は必要ですが、優先順位を明確にして重点配分を行うことにより、地域計画等を一体的に展開しやすく、投資効果も高くなります。

また、渋滞対策や交通安全対策等の課題についても、ともすれば優先順位の理由が不明確であったために重点投資が徹底されていないと思われませんが、順位付けや効果、計画や進捗が見えるかたちで公表しつつ、国・県・市町村が情報を共有して連携し、行政効率を上げる努力をするべきであると考えます。

2. 暮らしの質を向上させるための交通拠点や市街地整備、公共交通機関の充実

魅力のあるまちづくりを進め、急速に進む高齢化に対応するためには、家用自動車と電車・バス等の公共交通結節機能の強化、公共交通機関の充実による移動選択肢の拡大、市街地の質的向上が必要であり、本市内においても都市計画等に基づき、市の玄関口となるJR竜王駅周辺及び双葉スマートICの整備を進めています。

都市拠点施設の整備により交通の利便性を高め、まちの魅力や自治体間の競争力を向上させるとともに、既存道路ストックを活用しながら市街地の質的向上を図る観点からも、関連する基盤整備や沿道環境改善（緑化や景観、街並み）など、総合的な政策を充実させるべきであると考えます。

3. 地域の努力を活かせる財源の確保と選択的な基準の推進

地域には独自に育まれた歴史と文化があり、自己選択、自己責任に基づく個性あふれるまちづくりを進めるためには、裁量性のある財源と柔軟性のある基準運用が必要です。本市内においても生活道路の整備が不十分な状況にあるうえ、既存施設の老朽化に対応する措置など地域の実情に応じた財源の確保が必要です。また、都市の基幹となる道路の整備や管理においても、地域の判断や負担で一定の範囲の質的向上や簡素化の選択が行えるような柔軟性が不可欠であると考えます。

なお、こうした取り組みを着実に進めるためには、計画的な財源の確保が必要不可欠であり、甲斐市議会においても道路特定財源確保に関する意見書を採択し、関係機関に提出されています。